



夏の体験が秋に実る

校長 持田 裕代

学校の花壇に植えたヒマワリがぐんぐんと成長し、大きな花をつけて、学校に戻ってきた子供たちを迎えています。

8月1日から10日まで、四谷小学校の校庭会場でラジオ体操を実施していましたが、体操にいらした地域の方が朝早くから水撒きをしてくださったお蔭で、一番暑い時期を乗り越え、花壇のさつまいもやホウセンカなどの植物が青々とした葉をつけてよく育ちました。5年生が植えた稲も花をさかせ、おしべが見られる様子を子供たちは、目を凝らして観察画を描いていました。

一学期の終業式で、私は子供たちに『時間割 自分で決める 夏の学校』をテーマにして、「夏休みを充実させる方法を自分で考えよう。」という話をしました。普段は学校が決めた時間割で生活している子供たちは、夏休み中、どんな時間割を考えて過ごしたのか話を聞くのが楽しみです。10日以上かけて調べたことや計画的に時間を決めて運動したこと、家族や友達と出かけたことなど、たくさんの出来事が子供たちをひと回り大きく成長させてくれたことと思います。

夏休み中の行事を紹介します（詳細は各コーナーで）

◆3泊4日の天童交歓行事（6年）…7月24日～27日まで、26名の6年生が参加しました。姉妹校である天童市立干布小学校の6年生14名との交歓行事では、体験活動を存分に楽しみ、友情を深めました。3月19日～21日までの春の交歓会には、干布小の子供たちが四谷小に来ます。再会が楽しみです。

◆2泊3日の西湖夏季施設（5年）…8月3日～5日まで、富士五湖の一つである西湖のほitoriにある津原キャンプ場で体験活動をしました。今年の子供たちは飯ごう炊さんが上手で、失敗がなかったそうです。天候にも恵まれ全行程を順調に実施しました。

夏休みの様々な体験を糧にして、2学期も積極的に学校生活を送ってほしいと思います。夏季休業中は、教職員も時間をかけて様々な研修に参加し、自分の学級経営力、教科指導力、児童観察力等、指導力向上に努めました。学んだことを授業で発揮できるように準備を整えました。今学期も子供たちの更なる飛躍のために教職員一同、力を合わせて取り組みます。保護者、地域の皆様のご支援・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

道徳授業地区公開講座

道徳担当

道徳授業地区公開講座では、各学級において道徳の授業を保護者や地域の皆様に公開いたします。また、その後の意見交換会を通して、学校における道徳教育の在り方や家庭・地域との連携について、相互の理解を深めていきたいと考えております。

今年度の道徳授業地区公開講座の授業では、内容項目を「思いやり・親切」、「生命尊重」の2つに絞り、授業を行うことにしました。いじめ報道に心を痛めることが多い昨今、人を思いやり、互いの人権を大切にする心を育んでいきたいと考え、道徳授業を設定いたしました。

意見交換会は、各学年、学級で行います。道徳の授業や日頃道徳的観点から感じていることなどについて話し合いたいと考えておりますので、是非ご参加ください。

日 時 9月14日（月）

授業 13:30～14:15

意見交換会 14:30～15:00

（会場につきましては、学年便りでお知らせいたします。）

＜公開授業の内容＞

- ・1年1組「ごろりん ごろん ころろろろ」（親切）
2組「はしの上のおおかみ」（親切）
- ・2年生 「ハムスターの赤ちゃん」（生命尊重）
- ・3年1組「拾ったりんご」（親切）
2組「おじいさんの顔」（親切）
- ・4年生 「お母さん、泣かないで」（生命尊重）
- ・5年生 「くずれ落ちた段ボール箱」（親切）
- ・6年生 「レジにて」（思いやり）

天童交歓行事を終えて

6年担任

今年で43年目を迎える天童市干布小と四谷小の交歓行事は、26名が参加し今年も様々な体験や経験をしてきました。一日目は夕方からの激しい雨の為、予定していたキャンプは断念し、干布の公民館での宿泊となりました。しかし、天童の地域の方のご厚意で公民館横に飯ごう炊さんの場を設営していただき、カレーライス作りを体験することができました。初めは緊張した様子の子供たちでしたが、カレーライスを一緒に食べる頃にはすっかり打ち解け、四谷の子も天童の子も同じ学校の子供たちのように馴染んでいました。2日目からのテント宿泊、飯ごう炊さん、マスつかみ、流しそうめん、キャンプファイヤー、ひまわり迷路、そして民泊…笑顔で楽しく活動している姿が数多くありました。

4日間の充実した時間を振り返り、交歓行事を通して多くの方々の温かさにふれることができたことを本当にうれしく思います。春にまた会えることを今からとても楽しみにしています。

西湖夏季施設を終えて

5年担任

5年生は、8月3日（月）から5日（水）までの3日間、西湖夏季施設に行ってきました。豊かな自然の中で充実した3日間を過ごすことができ、次のような力が身に付きました。

○社会性（時刻を守って集合や整列をして、話を聞く。）

○協調性（協力してキャンプファイヤー、ハイキングなどの活動をやり遂げる。）

○積極性（すすんで片付けやゴミ拾いをしたり物を運んだりする。）

また、今回の夏季施設では、ほうとう作り、バーベキューの火起こし、飯ごう炊さん（カレーライス作り）、マスをさばく体験等、食という点からも上記の力が身に付いたと思います。

「すごく楽しい」「もうちょっと泊まりたい」という児童の様子に、充実感や成長を見ることができました。夏季施設での経験を自信として、2学期の活動をさらに頑張ってもらいたいと思います。

図工だからできること

図工専科

子供たちは図工の時間、様々なものやこと・人と出会い、繋がりながら、自分なりの意味や価値をつくり出しています。その中で、子供たちなりに試行を重ねたり、数々の自己決定を繰り返したりして、自分のイメージを形にしていきます。

ただの木切れや紙が、子供たちの手によって命が吹き込まれ、新たな物語が生まれ、世界で一つだけの存在として生まれ変わります。1から10をつくるのではなく、0から1を自分で生み出すという活動は、大人が思っている以上に過酷です。しかし、その過程を楽しみながら乗り越えていく子供たちの姿にいつも感心させられます。

図工における表現とは、自己表現であると同時に自己実現することでもあり、自分の思いを自分の力で形にしていくということは、「生きる力」に通ずる極めて総合的な学びと言えます。他の教科とは異なり、即時に目に見える形で何かができた、力がついたという実感はないかもしれませんが、6年間の図工での学びの積み重ねは、これからの子供たちの未来を創る源になるはずです。

